

「コミュニティワーク実践講座」を実施しました

令和元年10月20日(日)～令和2年3月7日(土)

※新型コロナウイルス感染症の影響により交流会は中止

実施目的

地域課題が多様化・深刻化する中、行政だけでは十分に対応しきれない場合も生じてきています。このため県民一人ひとりが共に助け合い、より暮らしやすい茨城を実現することを目的に、地域課題の解決を支援するコミュニティワーカーの養成と、ネットワークづくりを行いました。

<第1回>

- ・オリエンテーション
- ・コミュニティワークとは何か(講師:武田信子さん)
- ・コミュニティワーカーとは誰か(講師:西川正さん)

<第2回>

- ・市民性の向上と支援(講師:斎典道さん)
- ・傾聴・情報収集(講師:土屋佳子さん)
- ・分析～コミュニティワークエクササイズ集(講師:横須賀聡子さん)

<第3回>

- ・ファシリテーションI・II(講師:浦山絵里さん)
- ・地域実践プランニング(講師:武田信子さん・浦山絵里さん)

<第4回>

- ・地域を巻き込むリーダーシップ(講師:池本修悟さん)
- ・交渉・行政との協働(講師:池本修悟さん・松田妙子さん)

このほか県内各地で受講生が現地研修を行いました

受講生の声

「人間関係が発生する全ての現場で役立つのではと思った」
「全てを準備しておもてなしすることが正解ではなく、“みんなで”汗をかくことがコミュニティづくりにつながると学んだ」
「行政サービスをうまく活用するためには市民性を高める必要があることを今まで意識したことがなかった」
「市民活動を形式的に捉えていたのは間違いでした。市民一人ひとりがいかに楽しく、自分らしさを活かせるかがとても大切だと学びました」

- 実践してみたい
- 学んでみたい
- 仲間が欲しい
- 壁にぶつかった
- 講座を受けてみたい
- 地域活動に活用してみたい
- 市民活動、自分の活動にとり入れてみたい

など実践を深めたい方はこちらまで!

チャレンジいばらき県民運動

企画・運営 NPO 法人セカンドリーグ茨城
〒310-0022 茨城県水戸市梅香2-1-39
TEL:029-297-7040
FAX:029-233-2110
E-mail:info@2nd-league-i.com
http://2nd-league-i.com

急速な人口減少、少子高齢化などに伴う一人暮らしの高齢者、孤立化が深刻な子どもたち…

ここ茨城県は様々な地域課題の解決のために共助の取り組みを推進しており、

県民自ら解決する力を持つことが必要となっています

地域課題を抱える当事者自身が

課題解決への道を自力で歩めるようになれば

一人ひとりの課題が解決し

さらにはその背景となる地域課題も改善していきます

どんな人にも課題解決の力があり

“コミュニティワーク”は課題解決の力を引き出すものです

課題を見つけた皆さんは

皆さん自身の多様性を活かし

「コミュニティワーク」の手法で課題解決に取り組みましょう

専門家も

そうではない皆さんも

あなたらしいコミュニティワークを

このパンフレットでは、

これまでの実践例から

“コミュニティワーク”のヒントをお届けします

100年後の茨城県をより良くするために

『善きことは、カタツムリの速度で動く』

By マハトマ・ガンジー

地域と生きる・みんなで生きる

“コミュニティワーク” 実践者たちからのヒント集

～やってみたい・挑戦中の全ての人へ～

実践者に聞きました
コミュニティワークって？

- ・「なんかやってみようという気持ちになる環境を作る仕事」
- ・「組織になっていないコミュニティを組織化していくこと」
- ・「当事者(市民)が主体性を持って何かに参画する場を作っていくこと」

実践者に聞きました
コミュニティワークで大切なことは？

- ・力がない人はいないと信じること
- ・「してあげる」という支援とは全く別のもの
- ・取り組みに「それは面白いね」と共感して面白がる姿勢
- ・「〇〇のため」というより「〇〇と共に」
- ・いっぺんに課題を解決しようとせず、少しずつ変える

コミュニティワークのプロセス(工程)

【前提】無力感を持ち、声を大にできない市民こそいま社会に足りないことを一番知っているかもしれない

▽コミュニティと関わり始める

- ▽社会の中で小さな声の人の側に立ち傾聴・情報収集
- ▽観察・分析する(力関係の不均衡さなど、課題発見)
- ▽「よそ者」という立場をうまく使い、力関係を平らにする
- ▽求めている企画を探り、始まるように背中を押す
- ▽関係する行政サービスやNPO と交渉して繋ぐ
- ▽企画は準備しすぎず余地を作り参加しやすくする
- ▽成功で終われるよう、大きな失敗のない場を設定
- ▽目的に向かいファシリテーションし続ける

↓
参加者同士支え合い
主体的に動き、楽しい成功体験を得る

- エンパワー・自信(自分の力に気付く)
- 市民性(自分が社会を動かす構成員であると気付く)
- 主体性(課題を自ら見つけ取り組む力を得る)
- 安心(心の孤立が和らぐ)

など、力を取り戻していく

【目標】市民が自力でコミュニティを良くしていく

コミュニティワーカーは実践を振りかえり
学び続けることが大切!

実践例

- ▽台風19号(2019年)により水戸市岩根地区に浸水被害
- ▽岩根地区の近くに住むSさんが避難所に毎日通う
- ▽台風19号から1か月、「温かいものが食べたい」という声があがりはじめ、「コミュニティワーク開始のタイミング」と判断
- ▽炊き出し場所として県営住宅の集会所を候補に選ぶ
県の関係部署と相談し、開催を決定
- ▽「310食堂」(*)として住人向けに炊き出しを実行
*310食堂とは…地域の子どもからお年寄りまでが集う子ども食堂
- ▽浸水被害に遭わなかった周辺の方が参加を遠慮しており、Sさんの根気強い関わりで参加に前向きになり、参加する方も
- ▽参加者数が予想以上で人手や汁物が全く足りず、住人が食材を持ち寄り、火を起こすなど主体的に関わる
- ▽その中で「今年は餅つき出来ないな」との声を聞き「やってみますか?」と働きかけると喜ばれ、実行が決定
- ▽「310食堂は本来子どもに開かれていて」と説明すると、ふるまい事が得意な女性たちが「やってもらうばかりじゃ悪いと思っていた」と、主体的に餅つきなどの取り組みに参加することを楽しむように

助けてもらうだけでは自分の力に気付けない
自力で歩きはじめる力を取り戻す入り口へ

コミュニティワーク キーワード集

【コミュニティ】

地域・機能・属性・関心など共通する軸があって作られる、人と人の関係性

【傾聴】

本当に関心を寄せていることは何なのか、話しているときの感情はどうなのかを聴く能力

【情報収集】

コミュニティ・個人・地域課題について、情報を集めることがコミュニティワーク実践には重要

【分析】

集めた情報をコミュニティに関わる人達で共有して分類し、その背景や原因を深く掘り下げていく作業

【地域実践プランニング】

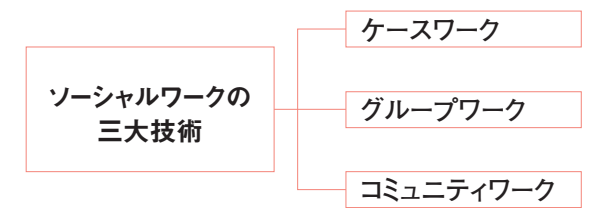
政府や地方自治体の計画に目を通し、取り組んでいる課題と照らし合わせ、活用を検討する

【交渉】

行政・企業・NPOなどの団体と効率的に交渉を行うことが地域課題を解決するカギとなる

【ファシリテーション】

人々の活動が容易にできるよう支援し、うまく事が運ぶようにかじ取りをすること



実践歴15年!

コミュニティワーク実践者 Q&A

Q 実践できるようになるため、普段から気を付けることってありますか?

A 人と話すときに常に「なんでなんだろう」と考えること。自分と大きく違う考えを持つ人と向き合った時こそ、色々な背景を理解するチャンスになります。

Q 課題を抱える当事者にはどんな向き合い方が良いですか?

A 例えるなら「地図を持っていない伴走者」。地図を持っているのは走っている本人。迷走しているように見えても見放さず信じ続け、見落としそうな情報を伝える役割だと思っています。

Q 社会的ではない人でも務まりますか?

A 内向的な人でも大丈夫。自身の短所を隠さずにいれば、相手に助けってもらったり、教えてもらったり、良い関わりが始まります。どんな相手にも、そして自分自身にも力があると信じることです。

Q コミュニティワークの楽しさって何ですか?

A 想像の範囲を超えた事に出会えることですね。「私の力だけではそんなこと起きないな」ってことにいっぱい出会う度、他者を信頼する力が増えていきます。